

HFSP2003 年度助成対象研究

長期フェローシップ

評議員会により採択 (2003 年 3 月 24 日付)

氏名	現所属(上) 受入先(下)	研究テーマ(上) 指導教官(下)
AMADOR Virginia スペイン	バルセロナ大学 スペイン ニューヨーク大学 病理学部 米国	中心体上に局在する F ボックス タンパク質、ヒト Fbl4 に関する 機能研究 Michele PAGANO
ANTONCHUK Jennifer カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学 遺伝子学部 バンクーバー カナダ	Mpl 欠損マウスに見られる 一次および二次造血の変異因子 に関する遺伝子スクリーン
	ウォルター & エリザ・ホール 医学研究所 癌・血液学部 パークビル オーストラリア	Doug HILTON
BACHAND Francois カナダ	マギル大学 解剖学・細胞生物学部 モントリオール カナダ	遺伝子発現調節と 成長抑制における タンパク質メチル化の役割
	ダナファーバー癌研究所 癌生物学・生物化学・	Pamela A. SILVER

分子薬理学部門
ボストン
米国

BACKHED
Fredrik
スウェーデン

カロリンスカ研究所
細菌学・腫瘍生物学センター
ストックホルム
スウェーデン

腸内微生物叢が肥満に
及ぼす影響

ワシントン医科大学
分子生物学・薬学部
セントルイス
米国

Jeffrey GORDON

BARDIN
Allison
米国

マサチューセッツ工科大学
生物学部
ケンブリッジ
米国

キイロシヨウジョウバエの
非対称分裂における
神経化制御の研究

エコール・ノルマル・シュペリオール
(Ecole Normale Supérieure)
生物学部
パリ
フランス

Francois SCHWEISGUTH

BECAMEL
Carine
フランス

国立科学研究センター(CNRS)
神経科学研究所
モンペリエ
フランス

AMPA レセプターのシナプス
伝達を制御する分子メカニズム

コールド・スプリング・ハーバー
研究所
神経科学部

Roberto MALINOW

米国

BECSKEI Attila ハンガリー	欧州分子生物学研究所(EMBL) 遺伝子発現プログラム ハイデルベルグ ドイツ	キナーゼおよびフォスファターゼ 反応の空間動態
	マサチューセッツ工科大学 物理学部 ケンブリッジ 米国	Alexander VAN OUDENAARDEN
BERDNIK Daniela オーストリア	分子病理学研究所 ウィーン オーストリア	ショウジョウバエの嗅覚系 における投射神経先の 分子メカニズム
	スタンフォード大学 生物科学部 米国	Liqun LUO
BERMAN Diego アルゼンチン	ワイツマン科学研究所 神経生物学部 レホボト イスラエル	哺乳動物の前頭前野皮質における 作業記憶および記憶消去 への分子的アプローチ
	コロンビア大学 神経生物学・行動学センター ニューヨーク 米国	Eric KANDEL
BERNECHE Simon	コーネル大学ワイル医学研究所 生化学部	原子間力顕微鏡および 電子顕微鏡検査による

カナダ	ニューヨーク 米国	電位型イオンチャネル の構造と機能に関する研究
	バーゼル大学バイオセンター (Biozentrum)構造生物学部 バーゼル スイス	Andreas ENGEL
BESSE Florence フランス	ジャックモノ研究所 発達・進化遺伝学部 パリ フランス	ショウジョウバエの神経筋接合部 において 伝令 RNA の局在を制御する 要因の同定
	欧州分子生物学研究所 (EMBL) 発生生物学プログラム ハイデルベルグ ドイツ	Anne EPHRUSSI
BLANCHETOT Christophe フランス	オランダ発生生物学研究所 ユトレヒト オランダ	PTP-PEST シグナル伝達および 機能の特性
	マギル大学 マギル癌センター モントリオール カナダ	Michel L. TREMBLAY
BUONOMO Sara イタリア	分子病理学研究所 ウィーン オーストリア	テロメアにおけるテロメラーゼ 制御のメカニズム
	ロックフェラー大学	Titia DE LANGE

	細胞生物学・遺伝学研究所 ニューヨーク 米国	
CARBALLIDO LOPEZ Rut スペイン	オックスフォード大学 Sir William Dunn 病理学研究所 英国	DNA 複製と細胞分裂の関 係に関する研究
	国立農学研究所(INRA) 細菌学部 ジュイ・ザン・ジョザス フランス	Dusko EHRlich
CHARETTE Steve カナダ	ラバル大学 癌研究センター ケベック カナダ	貪食細胞による アポトーシス細胞認識に 関する分子遺伝学
	チューリッヒ大学 分子生物学研究所 スイス	Michael O. HENGARTNER
CHRIST Nicole ドイツ	ケルン大学 遺伝学部 ドイツ	相同 DNA 修復物質の 選択的不活性化： マウス乳癌モデルの発生
	スローン・ケタリング記念 癌センター 細胞生物学プログラム ニューヨーク 米国	Maria JASIN

D'ORSO Ivan アルゼンチン	サンマルティン国立大学 (Universidad Nacional de General San Martin) バイオテクノロジー研究所 アルゼンチン	HIV 結合前のジンクフィンガー による RNA 認識
	カリフォルニア大学 生化学・生物物理学部 サンフランシスコ 米国	Alan D. FRANKEL
DE LA PENA DEL RIVERO Marcos スペイン	バレンシア大学 分子生物学部 スペイン	真核生物における伝令 RNA の decapping enzyme の (キャップをはずす酵素) メカニズムと制御に関する 構造研究
	欧州分子生物学研究所(EMBL) グルノーブル研究所 RNA タンパク質グループ フランス	Stephen CUSACK
DE RENZIS Stefano イタリア	マックスプランク分子細胞生物学 ・遺伝学研究所 細胞生物学部 ドレスデン ドイツ	哺乳動物の器官形成時に起きる 肝内胚葉の肝芽への成長抑制
	フォックスチェース癌センター 細胞・発生生物学部 フィラデルフィア 米国	Kenneth S. ZARET

DERMAUT Bart ベルギー	フランダース大学間 バイオテクノロジー研究所 分子遺伝学部 アントワープ ベルギー	量的形質解析による 新たな神経発達遺伝子の 同定
	ベイラー医科大学 分子・人類遺伝学部 ヒューストン 米国	Hugo J. BELLEN
DORFMAN Kevin 米国	マサチューセッツ工科大学 化学工学部 ケンブリッジ 米国	マイクロデバイスにおける 生体分子の輸送と解析： 癌性点変異の検出
	キュリー研究所 研究部門 パリ フランス	Jean-Louis VIOVY
EGO-STENGEL Valerie フランス	国立科学研究センター(CNRS) 神経生物学研究所 Gif sur Yvette フランス	レム睡眠中の海馬の活動パターン の再生：学習の必要があるか？
	マサチューセッツ工科大学 学習・記憶センター ケンブリッジ 米国	Matthew WILSON
FRIEDMAN Nir	ワイツマン科学研究所 複合体システムに関する	分裂生細胞内における キネシン 1 分子モーター

イスラエル	物理学部門 レボト イスラエル	に関する研究
	ハーバード大学 化学・化学生物学部 ケンブリッジ 米国	Xiaoliang Sunney XIE
FUKATA Yuko 日本	名古屋大学大学院医学系研究科 細胞情報薬理学専攻 名古屋 日本	シナプス発達における スタルガジンの役割
	カリフォルニア大学 生理学部 サンフランシスコ 米国	David BREDT
GOSHIMA Gohta 日本	京都大学 遺伝子メカニズム研究部 日本	ショウジョウバエ細胞における キネシンスーパーファミリーと micro-cargo 間の相互作用に関する 機能解析
	カリフォルニア大学 細胞・分子薬理学部 サンフランシスコ 米国	Ronald VALE
GRECO Valentina イタリア	マックス・プランク研究所(MPI) 分子細胞生物学・遺伝学部 ドレスデン ドイツ	皮膚幹細胞がニッチに存在して いる場合に見られる 遺伝子発現の主要な変化の同定

	<p>ロックフェラー大学 哺乳動物の細胞生物学・発生学部 ニューヨーク 米国</p>	<p>Elaine FUCHS</p>
<p>GROTEWOLD Lars ドイツ</p>	<p>ハインリッヒハイネ大学 動物発生・分子生物学研究所 デュッセルドルフ ドイツ</p>	<p>新たな Oct-3/4 の標的遺伝子の同定と機能解析</p>
	<p>エジンバラ大学 幹細胞研究所 英国</p>	<p>Austin G. SMITH</p>
<p>HALL Damien オーストラリア</p>	<p>米国立糖尿病・消化器・腎臓病研究所(国立衛生研究所) ベセスダ 米国</p>	<p>細胞内における輸送と折り畳みメカニズムの in vitro での近似</p>
	<p>ケンブリッジ大学 化学部 英国</p>	<p>Christopher DOBSON</p>
<p>HANSEN Annika ドイツ</p>	<p>リューベック大学 理論情報科学部 ドイツ</p>	<p>神経発達における遺伝子制御回路の数学的モデリング</p>
	<p>ロンドン大学 ウルフソン生物医学研究所 英国</p>	<p>Georgy KOENTGES</p>

<p>HAUBEN Ehud イスラエル</p>	<p>ワイツマン科学研究所 神経生物学部 レホボト イスラエル</p>	<p>樹状細胞による特異的な T細胞サブセットの活性化 を通じた免疫もしくは耐性 の誘導</p>
	<p>サンラファエロ病院 (遺伝子治療開発) ミラノ イタリア</p>	<p>Maria-Grazia RONCAROLO</p>
<p>HAYASHI Mitsuko 日本</p>	<p>岡山大学 生化学部 日本</p>	<p>シナプス伝達における アミノリン酸系脂質転位酵素 ATPアーゼ(APTase II)の役割</p>
	<p>エール大学 細胞生物学部 ニューヘブン 米国</p>	<p>Pietro DE CAMILLI</p>
<p>HERMAND Damien ベルギー</p>	<p>英国癌研究所 細胞周期研究室 ロンドン 英国</p>	<p>線形動物に属する C. elegans(線虫)を ゲノム不安定性から保護する 遺伝子の特性</p>
	<p>オランダ発生生物研究所 機能ゲノム科学部 ユトレヒト オランダ</p>	<p>Ronald H. A. PLASTERK</p>
<p>HEYES Colin 英国</p>	<p>ジョージア工科大学 化学部 アトランタ 米国</p>	<p>単一生体分子分光および 超分子集合体のナノ粒子の 生体結合</p>

	ウルム大学 生物物理学部 ドイツ	G. Ulrich NIENHAUS
HILTBRUNNER Andreas スイス	植物科学研究所 生物学部 チューリッヒ スイス	フィトクロムの光非依存性 核内移行
	アルベルト・ルードウィヒ大学 (フライブルク大学) 生物学研究所 フライブルグ ドイツ	Eberhard SCHAFER
HIRATA Hiromi 日本	京都大学ウィルス研究所 増殖制御学研究室 京都 日本	ゼブラフィッシュの行動を 制御する神経回路の発達および 機能に関する遺伝子解析
	ミシガン大学 分子・細胞・発生生物学部 アナーバー 米国	John KUWADA
HOLBROOK Jill 米国	ウィスコンシン大学 化学・生化学部 マディソン 米国	ナンセンス仲介減衰に關与する タンパク質因子に関する研究
	ハイデルベルグ大学 分子医学パートナーシップユニット(MMPU)	Andreas KULOZIK

ドイツ

HOOGENRAAD Casper オランダ	エラスムス大学(ロッテルダム) 神経科学部 オランダ	シナプスタンパク質の 細胞内輸送における liprin および GRIP(グルタミン酸 受容体相互作用タンパク質)の役割
	マサチューセッツ工科大学 学習・記憶センター ケンブリッジ 米国	Morgan SHENG
ISHIKAWA Masaki 日本	名古屋大学 生物科学部 日本	フィトクロム A シグナル伝達に おけるアラビドプシス SPA1 遺伝子 の機能
	ロックフェラー大学 植物分子生物学部 ニューヨーク 米国	Nam-Hai CHUA
JUNEJA Juhi インド	国立生物科学センター タンパク質構造・折り畳み研究部 バンガロール インド	シグナル伝達と腫瘍形成 における Galpha12 とカドヘリン の相互作用の重要性
	デューク大学医療センター 薬理学・癌生物学部 ダーラム 米国	Patrick CASEY
KADENER	ブエノスアイレス大学	キイロシヨジョウバエの

Sebastian アルゼンチン	アルゼンチン	神経変性疾病
	ブランダイス大学 生物学部 ウォルサム 米国	Michael ROSBASH
KANUKA Hirotaka 日本	理化学研究所脳科学総合研究所 細胞修復研究部 和光 日本	ショウジョウバエを用いた 宿主と寄生体の相互作用に関する 遺伝的解剖
	スタンフォード大学医学部 細菌学・免疫学部 米国	David SCHNEIDER
KATSANI Aikaterini- Rozalia ギリシャ	ライデン大学医学センター 分子生物学部 オランダ	ショウジョウバエ Nup107 複合体： 核膜孔と動原体におけるその動態と役割
	国立科学研究センター(CNRS) キュリー研究所 パリ フランス	Valerie DOYE および Roger KARESS
KIM Jin Woo 韓国	韓国科学技術先端研究所 生物科学部 テジョン 韓国	眼球発達時における VAX の機能制御に関する研究
	ソーク生物学研究所	Greg LEMKE

	分子神経生物学部 ラ・ホヤ 米国	
KIM Minsung 韓国	カリフォルニア大学 植物生物学部 デービス 米国	花の左右非相称性の発達と進化
	ジョンイネスセンター 細胞・発生生物学部 Colney Lane 英国	Enrico COEN
KNAUT Holger ドイツ	マックス・プランク 発生生物学研究所 遺伝子学部 テュービンゲン ドイツ	ゼブラフィッシュにおける 三叉神経節の発達
	スカーポール生体分子 医学研究所 発生遺伝学プログラム ニューヨーク 米国	Alexander SCHIER
KOBAYASHI Yasushi 日本	京都大学 植物学部 日本	グッピーにおける性選択の 分子的機序： 色素沈着時の遺伝的変異の特性
	マックス・プランク発生生物学 研究所 分子生物学部門	Detlef WEIGEL

	テュービンゲン ドイツ	
KORENBLIT Sivan イスラエル	ワイツマン科学研究所 分子遺伝学部 レホボト イスラエル	寿命制御における <i>C. elegans</i> (線虫)の インスリン・インスリン様成長因子 1 の 経路に関する分子解剖
	カリフォルニア大学 生化学・生物物理学部 サンフランシスコ 米国	Cynthia KENYON
KUBARYCH Kevin 米国	トロント大学 化学部 カナダ	タンパク質の超高速運動に関する 多次元的な赤外分光法
	理工科学校(Ecole Polytechnique) 光学・生命科学研究所 (Laboratoire d'Optique et Biosciences) パレゾー フランス	Manuel JOFFRE および Jean-Louis MARTIN
LOPEZ-BIGAS Nuria スペイン	バルセロナ大学 スペイン	ヒトの疾病遺伝子の コンピュータによる包括的特性
	欧州分子生物学研究所(EMBL) バイオインフォマティクス研究所 ヒンクストン 英国	Christos OUZOUNIS

MAIRA Mario カナダ	モントリオール臨床研究所 分子遺伝学部 カナダ	前脳の GABA 作動性神経細胞の発達 調節におけるホメオボックス遺伝子 Dlx の役割
	カリフォルニア大学 精神医学部 サンフランシスコ 米国	John RUBENSTEIN
MARIE Julien フランス	国立衛生医学研究所(INSERM) 国立科学研究センター リヨン フランス	T 細胞の発達と分化における TCR(T 細胞受容体)と ペプチド・MHC リガンドの相互作用 の役割
	ワシントン大学 免疫学部 シアトル 米国	Alexander RUDENSKY
MARTIN Sophie スイス	英国ウェルカム癌研究所 ケンブリッジ 英国	微小管と細胞分極作用の 相互作用
	コロンビア大学 微生物学部 ニューヨーク 米国	Fred CHANG
MCDONALD Michael 米国	ブランダイス大学 生物学部 ウォルサム 米国	指のパターニングに関与している 遺伝子の解析と特性

	ジュネーブ大学 動物学部 スイス	Denis DUBOULE
MILLAR Catherine アイルランド	エジンバラ大学 細胞・分子生物学研究所 英国	遺伝子コード領域における ヒストン修飾
	カリフォルニア大学 分子生物学研究所 ロサンゼルス 米国	Michael GRUNSTEIN
MUNEKAGE Yuri 日本	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 生駒 日本	C4 光合成を活性化するための ATP と NADPH の比率の平衡化 ; PSI 環状電子流の貢献
	原子力エネルギー庁(CEA) カラダッシュ研究所 Laboratoire d'Ecophysiologie de la Photosynthese Saint Paul Lez Durance フランス	Gilles PELTIER
NIR Eyal イスラエル	ヘブライ大学 物理化学部 エルサレム イスラエル	単一分子蛍光法を用いた タンパク質折り畳みの 複合メカニズムに関する研究
	カリフォルニア大学 化学・生体化学部 ロサンゼルス	Shimon WEISS

米国

PARISH Clare オーストラリア	モナッシュ医療センター 神経科学研究所 クレイトン オーストラリア	パーキンソン病を対象とした 幹細胞治療法の開発
	カロリンスカ研究所 医学生物化学・生物物理学部 ストックホルム スウェーデン	Ernest ARENAS
PELLETIER Laurence カナダ	エール医科大学 細胞生物学部 ニューヘブン 米国	中心体形成に関与する タンパク質の機能的特性
	マックス・プランク分子細胞生物学・ 遺伝学研究所 ドレスデン ドイツ	Anthony HYMAN
PITTET Mikael Johann スイス	ルードヴィヒ癌研究所 臨床腫瘍免疫学部 ローザンヌ スイス	抗原特異的 T 細胞反応に関する 高分解能な体内イメージング
	ハーバード医科大学 分子画像診断学研究センター ボストン 米国	Ralph WEISSLEDER

PLATANI Melpomeni ギリシャ	ライフサイエンス研究所 遺伝子制御・発現研究部 ダンディー 英国	クロマチンが誘導する紡錘系集合 における Ran の標的分子の 同定および特性
	欧州分子生物学研究所(EMBL) 遺伝子発現プログラム ハイデルベルグ ドイツ	Iain MATTAJ
RAHIMIPOUR Shai イスラエル	ワイツマン科学研究所 有機化学・分子生物学部 レホボト イスラエル	非リボゾーム性ペプチド合成酵素の ミメティクス：新しい人工酵素の 設計と発見
	スクリップス研究所 有機化学・分子生物学部 ラ・ホヤ 米国	Reza GHADIRI
RAMALHO SANTOS Miguel ポルトガル/米国	ハーバード大学 分子・細胞生物学部 ケンブリッジ 米国	血管芽細胞の発生ゲノミクス
	トロント大学 サミュエル・ルーネンフェルド研究所 カナダ	Janet ROSSANT
RAMON- MAIQUES Santiago スペイン	バレンシア生物医学研究所 (Instituto de Biomedicina de Valencia) 分子酵素学部 スペイン	DNA ミスマッチ修復および 複製との連携に関する 構造・機能研究

	腎臓病研究所(国立衛生研究所) 分子生物学部 ベセスダ 米国	Yang WEI
RAPE Michael ドイツ	マックス・プランク生化学研究所 分子細胞生物学部 マルティンスリート ドイツ	分化および分化細胞における 分裂後期促進複合体の作用
	ハーバード医科大学 細胞生物学部 ボストン 米国	Marc KIRSCHNER
RAVIV Uri イスラエル	ワイツマン科学研究所 物質材料・界面科学研究部 レホボト イスラエル	複雑な生物集合体の 構造および相互作用
	カリフォルニア大学 物質・材料研究所 サンタバーバラ 米国	Cyrus R. SAFINYA
ROBBE David フランス	国立科学研究センター (CNR) 分子・細胞生物学部 モンペリエ フランス	海馬 CA1 領域における細胞と 介在ニューロンとのピラミッド型結合 の生体内可塑性
	ラトガーズ大学 分子・行動神経科学センター	Gyorgy BUZSAKI

ニューアーク
米国

RUTSCHMANN Sophie フランス	国立科学研究センター(CNR) 分子・細胞生物学部 ストラスブール フランス	ネズミにおける突然変異誘発 スクリーニングによる細胞内 バクテリアへの免疫反応に 関する研究
------------------------------	---	---

スクリップス研究所 免疫学部 サンディエゴ 米国	Bruce BEUTLER
-----------------------------------	---------------

SANEYOSHI Takeo 日本	東京大学 分子神経生物学部 日本	脳内シグナル伝達カスケード (カルモジュリンキナーゼ)を制御する マルチ・タンパク質複合体の特性
--------------------------	------------------------	--

オレゴン健康科学大学 ヴォーラム高等生物医学研究所 ポートランド 米国	Thomas SODERLING
--	------------------

SCHNORRER Frank ドイツ	マックス・プランク発生生物学 研究所 遺伝学部 チュービンゲン ドイツ	ショウジョウバエ胚における 筋管細胞および付着部位選択を 制御するメカニズム
---------------------------	---	--

分子病理学研究所 ウィーン オーストリア	Barry DICKSON
----------------------------	---------------

SGALARI Giorgia イタリア	カリフォルニア大学 化学工学部 サンタバーバラ 米国	単一骨細胞における機械感覚
	フリー大学 物理学・天文学部 アムステルダム オランダ	Christoph SCHMIDT および Fred MACKINTOSH
SIEGFRIED Kellee 米国	ウィスコンシン大学 マジソン 米国	ゼブラフィッシュの生殖腺における 性的二形性
	マックス・プランク発生生物 研究所 チュービンゲン ドイツ	Christiane NUSSLEIN-VOLHARD
SIGMAN Mariano スペイン	ロックフェラー大学 神経生物学研究所 ニューヨーク 米国	fMRI を用いた神経活性化の解像時間調整： 二重課題への応用
	国立衛生医学研究所(INSERM) 神経画像診断研究所 (Laboratoire de Neuro-Imagerie Cognitive) オルセー フランス	Stanislas DEHAENE
SMITH Alicia	ヴァージニア医科大学 細胞シグナル伝達センター	原形質膜へのウィルス付着の動態

米国	シャーロットビル 米国	
	スイス連邦工科大学 生化学研究所 チューリッヒ スイス	Ari HELENIUS
SOUTOGLOU Evanthia ギリシャ	FORTH(技術・研究財団) 分子生物学・生命工学研究所 ヘラクリオン ギリシャ	核環境における TAF 含有複合体 集合の動態
	遺伝学・生物分子細胞学研究所 (IGBMC) 転写制御研究部 イルキルシュ フランス	Laszio TORA
SUDARSAN Vikram インド	シェフィールド大学 英国	低酸素時の ショウジョウバエの気管枝における Shaved の制御および機能
	スタンフォード大学 生化学部 米国	Mark KRASNOW
TEKEUCHI Jun 日本	奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) バイオサイエンス研究科 生駒 日本	心臓血管発達時における 心房と心房中隔形成の 分子メカニズム

トロント小児病院
心臓血管研究部
トロント
カナダ

Benoit BRUNEAU

TANENTZAPF
Guy
カナダ

トロント大学
動物学部
カナダ

ショウジョウバエのタリン
に関する構造機能解析

英国ウェルカム癌研究所
ケンブリッジ
英国

Nicholas BROWN

TANIGAKI
Kenji
日本

京都大学
医化学部
日本

生体内での遺伝子コード化神経作用時の
探針を用いた皮質回路に関する機能研究

マックス・プランク医学研究所
生物医学・光学研究部
ハイデルベルグ
ドイツ

Winfried DENK

TE WELSCHER
Pascal
オランダ

ユトレヒト大学
発生生物学部
オランダ

原索動物ホヤの中樞神経系
の発達

アントン・ドールン動物学研究所
細胞生物学部
ナポリ
イタリア

Paolo SORDINO

URBAN

ケンブリッジ大学

細胞膜内分解酵素：

Sinisa カナダ	MRC 分子生物学研究所 英国	阻害因子の設計および 生物物理的解析
	ハーバード医科大学 神経疾患センター ボストン 米国	Michael WOLFE
VAN DE BOR Veronique フランス	パリ第6大学 フランス	ショウジョウバエの卵母細胞における gurken 伝令 RNA の局在化に必要な 配列要素の特性
	ICMB (細胞・分子生物学研究所) ウェルカムトラスト研究所 または細胞分子学部 エジンバラ 英国	Ilan DAVIS
VAN DROGEN Frank オランダ	スイス癌研究所(ISREC) Epalinges スイス	F ボックスタンパク質、ヒト Cdc4 の癌抑制因子としての役割の特性
	スクリップス研究所 分子生物学部 ラ・ホヤ 米国	Steven REED
VERDEL Andre フランス	国立衛生医学研究所(INSERM) 医学部 ラ・トロンシュ/ グルノーブル フランス	出芽酵母の 染色体分離と安定維持における Hst3 および Hst4 の役割

	ハーバード医科大学 細胞生物学部 ボストン 米国	Danesh MOAZED
VERT Gregory フランス	国立科学研究センター(CNRS) 植物生化学・分子生理学研究所 モンペリエ フランス	アラビドプシスにおける ブラシノステロイドシグナル伝達 に関する遺伝・ゲノム解析
	ソーク研究所 植物生物学部 ラ・ホヤ 米国	Joanne CHORY
WAGNER Markus ドイツ	マックス・フォン・ペッケンコファー 研究所 遺伝子センター ミュンヘン ドイツ	人工 MCMV をベクターとして 使用した生細胞における 細胞骨格のリアルタイム イメージング
	ハーバード医科大学 病理学部 ボストン 米国	Hidde PLOEGH
WALTHER Tobias ドイツ	欧州分子生物学研究所(EMBL) 遺伝子発現プログラム ハイデルベルグ ドイツ	ミトコンドリア融合の メカニズム
	カリフォルニア大学	Peter WALTER

	生化学・生物物理学部 サンフランシスコ 米国	
WHITFIELD Jonathan 英国	ロンドン大学 エーザイ・ロンドン研究所 英国	MYC 誘導による ミトコンドリアプロテオーム の決定
	カリフォルニア大学 癌センター サンフランシスコ 米国	Gerard EVAN
YAMAGUCHI Satoko 日本	東京大学 分子生物学部 日本	キイロシヨウジョウバエにおける 色認識の特性
	ニューヨーク大学 生物学部 米国	Claude DESPLAN
ZABEL Mark 米国	ユタ医科大学 ソルトレークシティ 米国	プリオン病原性における役割を解読するため ミクログリアの細胞接触・細胞仲介による アブレーション使用
	チューリッヒ大学病院 神経病理学研究所 チューリッヒ スイス	Adriano AGUZZI
ZOCCOLAN Davide Franco	イタリア国立高等研究所 生物物理学部	雑多な中での物質認識： サルの下側頭皮質における

イタリア

トリエステ
イタリア

選択性および不変性

マサチューセッツ工科大学
脳・認知科学部
ケンブリッジ
米国

Tomaso POGGIO/
James DICARLO